



Y.Hatanaka

THE NEW ZEALAND TROPHY

第42回 ニュージーランドトロフィー (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 54,000,000円 22,000,000円 14,000,000円 8,100,000円 5,400,000円
付加賞 1,120,000円 320,000円 160,000円



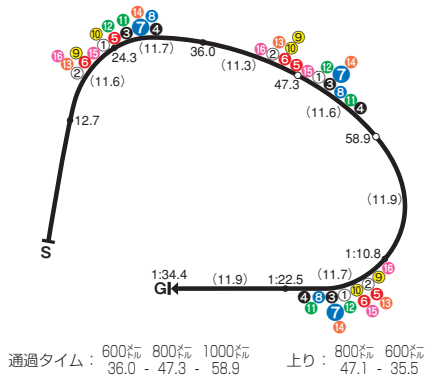
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牡・牝、3歳
負担重量 馬齢重量

2024.4.6 中山 曇・稍重 芝1600m (国営) (指定)

順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	エコロブルーム	牡	3	57	横山武史	1:34.4	3-4-4	35.0	472(+8)	4.7③	加藤征弘(美浦)	110
2	③	ボンドガール	牝	3	55	武 豊	3/4	5-4-4	35.1	450(-4)	3.2①	手塚貴久(美浦)	104
3	④	ユキノロイヤル	牡	3	57	石橋 脩	アタマ	1-1-1	35.6	444(±0)	37.5⑧	小野次郎(美浦)	108
4	①	カズミクラージュ	牡	3	57	菅原明良	1/2	9-7-7	35.1	482(-10)	9.3⑤	吉岡辰弥(栗東)	107
5	②	ドリーミングアップ	牡	3	57	吉田 豊	1/2	14-14-12	34.6	460(+2)	94.3⑩	高橋文雅(美浦)	
6	⑥	グリーンエア	牡	3	57	松岡正海	3/4	2-3-3	35.6	468(-4)	190.4⑨	上原博之(美浦)	
7	⑩	エイムフォーエース	牡	3	57	森 泰斗	クビ	9-11-9	35.0	428(-2)	158.2⑨	山下貴之(船橋)	
8	④	オーサムストローク	牡	3	57	田辺裕信	クビ	3-4-4	35.6	442(+2)	38.8⑩	伊藤圭三(美浦)	
9	⑨	エンヤラヴフェイス	牡	3	57	北村宏司	クビ	12-11-9	35.2	488(±0)	33.0⑧	森田直行(栗東)	
10	⑤	スパークリシャール	牡	3	57	浜中 俊	3/4	11-9-9	35.5	476(-8)	22.9⑥	小島茂之(美浦)	
11	⑤	ルージュスエルテ	牡	3	55	横山和生	クビ	7-10-12	35.5	468(-2)	5.8④	国枝 栄(美浦)	
12	⑥	シャインズオンユー	牡	3	57	石川裕紀人	1	7-7-7	35.8	446(-2)	109.1⑩	青木孝文(美浦)	
13	⑥	サトミノキラリ	牡	3	57	内田博幸	ハナ	14-16-16	34.9	464(±0)	75.3⑩	鈴木伸尊(美浦)	
14	⑨	デビッドテソーロ	牡	3	57	原 優介	1/4	12-11-15	35.7	466(±0)	136.1⑩	小手川準(美浦)	
15	⑩	ブライトマン	牡	3	57	三浦皇成	1/2	14-14-12	35.5	480(±0)	32.7⑦	蛸名正義(美浦)	
16	①	キャプテンシー	牡	3	57	M.デムーロ	クビ	5-2-2	36.7	468(+6)	4.1②	松永幹夫(栗東)	

単勝⑦470円(3%) 複勝⑦180円(3%) ③170円(2%) ④760円(10%) 枠連②-④900円(2%)
馬連③-⑦830円(2%) ワイド③-⑦390円(1%) ④-⑦2,480円(27%) ③-④2,620円(29%)
馬単③-④2,110円(7%) 3連複③-④-⑦11,050円(32%) 3連単③-④-⑦48,790円(121%)



通過タイム : 600m 800m 1000m
36.0 - 47.3 - 58.9 上り : 800m 600m
47.1 - 35.5

アラカルト

- ・横山武史騎手はニュージーランドトロフィー初勝利。J R A重賞は本年2勝目、通算22勝目
- ・加藤征弘調教師はニュージーランドトロフィー初勝利。J R A重賞は本年初勝利、通算14勝目
- ・ダイワメジャー産駒はJ R A重賞通算52勝目
- ・非当選馬 1頭(クィーンズハット)
- ・エコロブルーム、ボンドガール、ユキノロイヤルはNHKマイルC(G I)に優先出走できる

エコロブルーム *Ecoro Bloom*

牡 栗毛 2021.4.8生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・原村正紀氏 美満・加藤征弘厩舎
馬名意味・冠名+開花

シュガーショックUSA系 F6-F

ダイワメジャー 栗毛 2001	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo
		Wishing Well
	スカーレットブーケ 栗毛 1988	ノーザンテストCAN
		スカーレットインクUSA
シュガーショックUSA Sugar Shock 栗毛 2011	Candy Ride 鹿毛 1999	Ride the Rails
		Candy Girl
	Enthusiastically 栗毛 2007	Distorted Humor
		Unbridled Hope

5代までのインブリード：Fappiano M5×M5

INTERVIEW

佐々木淳史 厩舎長（ノーザンファーム空港）

競馬で長所が現れたことを嬉しく思います

馬格はありましたが、ダイワメジャー産駒としては、ための利いた走りをしていただけて、動きに柔軟さを感じられました。調教でもへこたれない体質の強さもあり、坂路に入れる本数も他の馬より多かったです。その際はキレを生かせる走りを意識してきたので、競馬でその長所が現れたことを嬉しく思います。

Photostud



1番人気に支持された前走のシンザン記念では勝ち馬の強襲に屈し、2着に敗れた本馬だが、態勢を立て直されて臨んだこの日はライバルを凌駕する末脚を発揮して逆襲。昨年の種付けを最後に種牡馬生活から引退した父に、14年連続のJRA重賞制覇をプレゼントした。初陣から一貫して芝1600m戦に使われ、3着以内は一度も外していないスペシャリスト。その後、脚部に軽度の違和感を生じたため、NHKマイルCへの参戦は見合わせたものの、復帰後の活躍が楽しみだ。

父ダイワメジャー

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央、首28戦9勝(皐月賞^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1} 2回、安田記念^{G1}、毎日王冠^{G1}、マイラーズC^{G1})、最優秀短距離馬2回、08年から供用、15年日本2歳リーディングサイヤー〔代表産駒〕レーヌミノル(桜花賞^{G1})、アドマイヤマーズ(香港マイル^{G1}、朝日杯フューチュリティS^{G1}、NHKマイルC^{G1})、メジャーエンブレム(NHKマイルC^{G1}、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、コバノリチャード(高松宮記念^{G1})、セリフォス(マイルチャンピオンシップ^{G1})、カレンブラックヒル(NHKマイルC^{G1})、レシステンシア(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、アスコリビチェーノ(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、ブルドッグボス(JBCスプリント^J、I)、ノーヴァレンダ(全日本2歳優駿^J、I)、ダブルメジャー Double Major(ロワイヤルオーク賞・仏^{G1})、ダイワマッジョーレ(京王杯スプリングC^{G1}、阪急杯^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1} 2着)、他に重賞勝ち馬多数

母シュガーショックUSA

北米16戦5勝(ファンタジーS^{G3}、アメリカンビューティS、パンサーズS、ハニービーS^{G3} 2着)、15年輸入

アドマイヤメティス(17 牝父ディーブインパクト)中央24戦3勝(大府特別)

ラーゴム(18 牝父オルフェヴル)中央16戦4勝(さきざき賞^{G1}、アンドロメダS・L、吾妻小富士オープン^{OP}、京都2歳S^{G1} 2着、アイビーS・L 2着)、地方3戦0勝(浦和記念^J II 2着、白山大賞典^J III 2着、名古屋ランプリ^J II 3着)

スパイダーゴールド(19 牝父ダイワメジャー)中央13戦4勝(アメジストS、オリエンタル賞、湯沢特別) ㊟

ミッキーマカロン(20 牝父キタサンブラック)中央15戦1勝 ㊟

エコロブルーム 本馬(21 牝父ダイワメジャー)中央4戦2勝(ニュージューランドトロフィー^{G1}、シンザン記念^{G1} 2着) 獲得総賞金78,606,000円(22 牝父サートウルナリア) (23 牝父オルフェヴル)

祖母インスーシアスティカリー Enthusiastically

アメリカ産 不出走

シュガーショックUSA(11 前出)

サンイスル San Iseul(13 牝父Vicar)韓1勝

曾祖母アンブライドルドホープ Unbridled Hope

アメリカ産 北米6勝(レディーズH^{G3}、ビムリコディスタフH^{G3} 3着、デラウェアH^{G3} 3着)、アンドリエッテ(マーメイドS^{G1}、チューリップ賞^{G1} 2着)の祖母

一枚上の末脚を繰り出し重賞初制覇

シンコウラブリイ、ヒシアマゾン、ファビラスラフィンなど、数々の名牝が歴代の優勝馬に名を連ねるニュージランドトロフィーだが、1997年のシーキングザパールを最後に牝馬の勝利は途絶えている。「3分の2」の抽選に漏れて桜花賞への出走が叶わず、こちらへ矛先を向けてきたサウジアラビアロイヤルCの2着馬ボンダガールが1番人気に支持された今年も、同馬は2着まで。その前には同じダイワメジャー産駒で、3番人気の支持を集めたエコロブルームが立ちをはだかった。

先遣役を務めたのは中山のマイル戦で2勝を記録しているユキノロイヤル。押し出された形の逃げとはいえ、少し坂を駆け上がったからにはこの3頭の追い比となり、一枚上の末脚を繰り出したエコロブルームが内の2頭をねじ伏せて勝利を掴んだ。

1番人気に支持された前走のシンザン記念では勝ち馬の強襲に屈し、2着に敗れた本馬だが、態勢を立て直されて臨んだこの日はライバルを凌駕する末脚を発揮して逆襲。昨年の種付けを最後に種牡馬生活から引退した父に、14年連続のJRA重賞制覇をプレゼントした。初陣から一貫して芝1600m戦に使われ、3着以内は一度も外していないスペシャリスト。その後、脚部に軽度の違和感を生じたため、NHKマイルCへの参戦は見合わせたものの、復帰後の活躍が楽しみだ。